

第5回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

文化財をはじめとする人文科学資料研究への活用が期待される「負ミュオンを用いた新たな非破壊研究手法」の実用が、今、日本の研究グループによって精力的に推進されております。高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所では、茨城県東海村にある J-PARC MLF ミュオン施設 (MUSE) で世界最高強度のバルス負ミュオンビームを用いた分析が進められており、また、大阪大学核物理研究センター (RCNP) でも、連続負ミュオンビームによる非破壊分析が活発に実施されています。

これまで放射光や中性子などを用いて、様々な文化財科学の研究が行われておりますが、さらにミュオンも加えて、量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催します。全国の大学・博物館・研究所等の人文科学系の研究者と自然科学系の研究者とのネットワークの形成に向けて、新たな文理融合プラットフォームを構築する一助となる事を期待しています。

このたび第5回シンポジウムは、ハイブリッド方式 (オンライン型と会場参加型の同時開催) を目指し、準備して参りましたが、今般の COVID-19 の状況を鑑み、皆様の健康や安全面を最優先とし、断腸の思いではございますが会場開催を断念、オンライン開催のみとする世話人らの判断に至りました。

今回は、以下の先生方の招待講演を予定しております。

- 藤尾慎一郎氏 (国立歴史民俗博物館) 「土器と DNA 分析」
- 岡見知紀氏 (橿原考古学研究所) 「出土遺物に付着した墨の分析」
- 鬼柳善明氏 (名古屋大学) 「日本刀の金属工学的研究への中性子とミュオンの応用」
- 星野真人氏 (高輝度光科学研究センター) 「放射光を用いた高エネルギー X線マイクロ CT の現状と文化財試料等への応用」

皆様のご参加をお待ちしております。

世話人代表 三宅康博、下村浩一郎 (KEK 物構研)

2021 年

9/9_木 ▶ 10_金

オンライン開催

~~国立科学博物館
日本館 2 階 講堂~~

参加費：無料

参加申し込み・
プログラム等
詳細は WEB を
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/msl/2021/08/5.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
三宅 康博

E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、
共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館

協催：日本中間子科学会、J-PARC センター、大阪大学核物理研究センター、
新学術領域「宇宙観測検出器と量子ビームの出会い。新たな応用への架け橋。」
異分野融合 (大阪大学)「新学術・産業応用を目指した次世代ミュオン分析拠点の形成」
SPRING-8 ユーザ協同体 (SPRUC) 文化財研究会